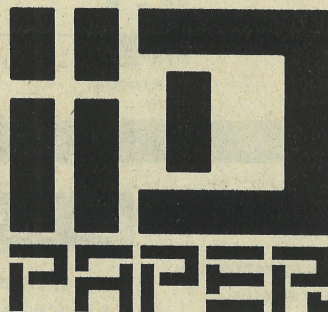


アイデアールプロジェクトが手がける
R-school project (学校跡地再生プロジェクト)。

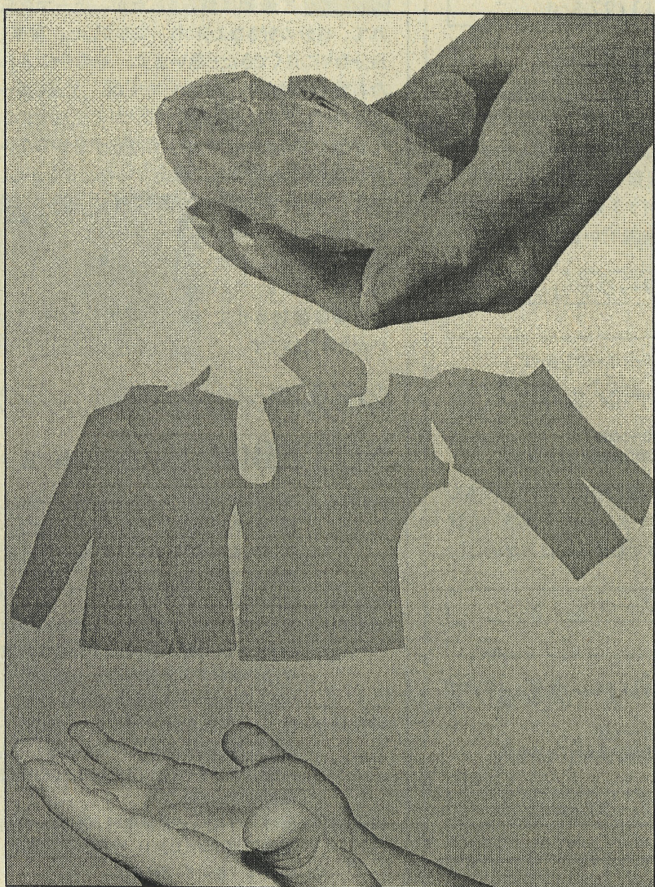
- Rethink 民間からパブリックを考えてみよう。
 - Recycle 廃校になった学校という空間を活かしながら。
 - Recreate 地域に根ざした、創業支援スペースとして甦らせる。
 - Reset 民間企業としては都内初。
 - Renovation デザインとものづくりを核とした新しいコミュニティの「場」。
- それが、世田谷ものづくり学校—IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN.



IID PAPER
November 2004, Issue 01

Published Monthly by IDEE R-project
3-3-7 Higashi-Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo
103-0004, Japan
http://www.r-school.net

President: Teruo Kurosaki
Editor: IDEE R-project/IID Office + Takako Takano
Art Director: Donny Grafiks www.donnygrafiks.com
IID Office fax. +81-3-5481-9012
e-mail. contact@r-school.net



ファッションとアートの境界を越えて 東京リサイクルプロジェクト

20471120 [Make Over] 展

今年10月1日にオープンした廃校利用プロジェクト、世田谷ものづくり学校に併設されたIID Galleryのオープニング第2弾は、ファッションとアートの領域を越えて活躍する「20471120」が登場します。1992年、アート、モード、キャラクターをコンセプトに、中川正博とLICAは二人組のデザイナーユニットで20471120を立ちあげ、'94年の東京コレクションで鮮烈なデビューを果たしました。20471120はファッションに敏感な10~20代の若者たちの間でカリスマ的存在となり、パリコレクション参加や様々なエンターテインメントコレクションにおける演出は大きな話題を呼びました。その後、中川さんは新しいアートユニットとして、'98年に「中川装置」を発足。水戸芸術館、横浜トリエンナーレ、東京国際フ

ォーラム等における展覧会、内外のコレクションへの参加などアートとファッションの両領域で活躍中です。また、使った人の思い出とともに古着を預かり、アート作品として再生させて返すという「リサイクルプロジェクト」は大反響となり、ニューヨークのPS1やスミソニアン博物館でも行われるなど世界的にも高い評価を得ました。その後もリサイクルプロジェクトは、20471120と中川装置のライフワークとして継承されています。今回の展覧会「Make Over」展では、モデルや子ども達と一緒に取り組んだ20471120の春夏新作のシューティングショウの映像、カーテンから作られた1枚パターンの服、その他従来のリサイクルプロジェクトなどを展示します。リサイクルプロジェクトとして広く知

られる20471120のこうした活動が、同じく再生をテーマにしたアイデアールプロジェクトの空間でどのように展開されるのか。注目展覧会です。

□参考サイト
http://www.littlemore.co.jp/book/kobetsu/art/nakagawa.html
http://www.nakagawa-sochi.com/

会期: [20471120+PAPER]
11/9 (火)~11/14 (日)
[MAKE OVER 展示会]
11/9 (火)~12/5 (日)
開館時間: 11:00~19:00
*最終日は18:00終了
休館日: 毎週月曜
入場料: 無料

*[Make Over] 展期間中、Recycle Project2004を11月9日~14日まで受付いたします。いらなくなった下記のものをお持ちください(それぞれ有料になります)。いらなくなったカーテンをシャツに。いらなくなったアクセサリーやジュエリーをパワーストーン付きネックレスにそれぞれリサイクル致します。

サルビア喫茶展

SEKI YURIO

雑誌「みづゑ」のアートディレクター、セキユリヲさんがプロデュースする本の装丁や洋服ブランド「サルビア」の展覧会が2年ぶりに開催されます。サルビアは2000年秋頃からセキユリヲさんが「Pattern

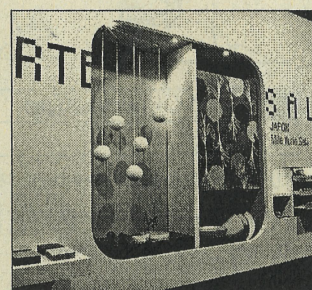
Work」と称して描きためた図案をもとにプロダクトアウトしている活動で、昭和のにおいがふんわりと感じられる甘く優しいモチーフと色づかいが特徴。その人気は、サルビアの名前で毎年本が出版

されるほどです。今年9月のパリ展に続く東京展として開催される今回のサルビア喫茶展では、「月」をテーマに、照明や座布団などのインテリアアイテムから、2005年春夏の洋服まで、さまざまな作品が多数発表されるほか、会場では受注販売も行われます。あたたかみあふれる作品に囲まれながら、サルビアの限

定喫茶空間でゆったりした時間をお過ごしください。

□サルビアHP
http://www.salvia.jp/

「サルビア喫茶展」
会期: 11/16 (火)~11/27 (土) *月曜休館
会場: みづゑ教室 (IID 2F)
時間: 11:00~20:00
入場料: 無料 *「くつろぎ券」は有料
最終日にワークショップを予定しています
(本紙裏面記事参照)



9月パリ展の様子

WORKING PEOPLE

小島淳平さん (THE DIRECTORS GUILD)

10月某日、IID (世田谷ものづくり学校) のある一室には50人余のスタッフが新しいテレビCMの撮影のために集っていた。この現場を動かしていたのがCMディレクターとして第一線で活躍中の小島淳平さん。この秋、同じくディレクターとして活躍する細野ひで晃さん、芳賀薫さんとも



にTHE DIRECTORS GUILDを立ち上げ、現在IIDの3Fに事務所を構えている。—IIDが始動して1カ月、実際にここで仕事を始めてみていかがですか? 「IIDはみんながモノをつくっている感じがすごくいい。隣で木を削っているヤツがいたり、絵描いているヤツがいたり、自分は美大出身なんだけど、この環境はまさにそんなカンジ。今回のCM撮影でもこのクリエイティブな雰囲気を感じたスタッフがすごくのって来て、それが絶対作品に表れてくるんじゃないかと…」

—そんななか、小島さんが今後IIDでやっていきたいことは? 「今の日本のCM表現は世界のなかで先端をいっているとはいいがたいけど、それに対して僕等が何か出来るとすれば、それはいろいろなアイデアを出し合える環境づくり。いろいろな人が居て、空が見えて風が抜けるこの環境だからこそ見えてくる可能性があると考えています。」
—読者に向けてひと言お願いします。 「CMって一般の人を対象としながら、気付くと広告業界のなかだけで仕事をしがち。地域の方とかと接点があるのは僕等にとっても非常に新鮮です。僕等の仕事をいろいろと知ってもらうなかで、撮影場所の提供といったことにも理解を示してもらえるようにな

れたらと思います。」
このIIDという環境を今後の仕事にどうつなげていくか、小島さんの今後の活躍にますます注目したい。



IIDでCFの撮影を行った雑誌「TV Japan」(11月15日創刊)テレビCMのひとつ。この撮影には同じくIID内にあるスタジオschoolがスタッフとして参加、編集も3Fのアクティブシネクラブで行った